

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果のお知らせ

令和5年4月に中学校3年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査結果の概要をお知らせします。今回の調査は国語・数学・英語の3教科でした。なお、生徒の個票については、既に配付しております。

《教科別学習状況調査結果》

	平均正答率 (%)		
	国 語	数 学	英 語
本 校	75.0	59.0	60.0
神 奈 川 県	70.0	52.0	50.0
全 国	69.8	51.0	45.6

《国語の考察》

ほとんどの観点で、神奈川県及び全国の平均を上回る正答率であったが、「インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを選択する」と、「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す」の2点においてのみ下回る結果となった。

文章を読んでその主旨を理解する学習は授業の中で日常的に行っているが、今後はさらにグループワーク等を多く取り入れ、主体的に「読み込む」力をつける学習を進めていきたい。また、古典の学習を苦手としている生徒が多いので、歴史的仮名遣いを含め、古典の文章に慣れることを目標に、生徒の実態を踏まえた授業計画を進めていきたいと考えている。

《数学の考察》

すべての観点において、神奈川県及び全国の平均を7%程度上回る正答率であった。また、A：式と計算、B：図形、C：関数、D：データの活用という4領域別の集計においても神奈川県や全国の平均を上回る正答率となった。特にAとCの領域では60%を超える正答率であり、理解を深めている生徒が多いことがわかる。

図形とデータの活用については、神奈川県や全国の正答率も低く、問題のレベルが高かったが、図形の問題については全国平均よりも10%以上高い正答率であった。データの活用については、全国平均と変わらない正答率であり、資料を活用した分析に課題があることがわかる。数学は既習の内容をいかに活用して課題解決につなげていくかが大切なので、日々の学習の中で振り返りをしつつ、理解を深めることができるようにしていきたい。

《英語の考察》

すべての観点において、神奈川県及び全国の平均を上回る正答率であった。しかし、思考・判断・表現の問題において、「聞くこと」、「書くこと」とともに50%を下回る正答率の問題があった。一つは「日常的话题について必要な情報を聞き取る」問題、もう一つは「社会的な話題について、自分の意見とその理由を書く」問題である。特に後者に関しては30%程度の正答率となっている。

今後は、教科書の本文のみならず、日常的话题、時事を含む社会的な話題にも対応した学習を心がけたい。あわせて、そのテーマに沿った自分の考えや理由を表現するような経験を増やしていきたい。